





なにが  
どうなる？

## 新学習指導要領に伴う学習支援

続いて「子どもたちの「生きる力」をよりいっそう育む」ことを目指し、「変化の激しいこれからの社会を生きるために、確かな学力、豊かな心、健やかな体の知・徳・体をバランスよく育てる」と目標を掲げる、「新学習指導要領」に伴う学習支援について質問しました。

「学習指導要領」は、戦後間もなくに試案として作られ、現在のような大臣告示の形で定められたのは昭和33年のことだそうです。以来、ほぼ10年毎に改訂され現在に至っています。

**質問⑤ 授業時間の増加や教育内容が改善されている状況で、どのように新学習指導要領が実施されているのか。**

**答弁⑤**

今年度から、小学校の授業時間が1・2年生で週2時間、3年生から6年生では週1時間増加している。

以前、1年生の4時間授業が週2日あったが、毎日5時間授業へ。2年生は、週に4時間授業が1日あったが、5時間授業が4日と、6時間授業が1日へ。3年生は、6時間授業が週1日から週2日へ増えた。4年生から6年生は、5時間授業が3日と6時間授業が2日だったが、6時間授業が週3日へ増えた。5・6年生では、週に1時間、外国語活動を新設。

中学校では、来年度から新学習指導要領が全面实施され、週当たり各学年で1時間授業時間が増加する。

**質問⑥ 草加市教育委員会として、外国語活動について具体的に活動の環境整備をどのように取り組んできたか。**

**答弁⑥**

パソコンを用いて視聴覚教材を活用した外国語活動が進められるように、市内各校へ移動式のパソコンとプロジェクト、ホワイトボードのセットを5セット配置。

また、外国語支援にあたるALTが隔週で小学校へも支援に行き、外国語活動の時間に担任をサポートするとともに、外国語活動で用いる絵カード等の教材も作成。ALTが外国語活動を支援することによって、児童の学習意欲を高めている。

**質問⑦ 草加市教育委員会として、学習補助員の増員など、具体的な手立てが必要と考えますがどのように考えているか。**

**答弁⑦**

学習補助員は小中学校全校に1名ずつ計32名を配置。今後、子どもたちの一人一人の学習を支援するために、学級数に応じた学習補助員の増員を検討。

**質問⑧ 市内小学校全校に配置している学級支援員及び要請があった学校に派遣している学校支援指導員の人数や資格、職務内容、今後の配置予定について。併せて、学校支援指導員の今後の配置予定として、市内中学校全校に1人ずつ割り当てるなど、何か支援を充実させる計画はあるのか。**

**答弁⑧**

学級支援員は、小学校全校に31人を配置。教員免許の有無は資格要件になし。

教育に関心があり、発達上及び生徒指導上の課題があると思われる児童に対して支援のできる健康な人材を市臨時職員として採用。職務内容は、各小学校で、落ち着いた教育環境を整えることを目的に、学校生活への支援を行うこと。校長から、学年、学級全体に良い影響を与えているなどの高い評価を得ている。関係児童の保護者から、きめ細かい支援により対人関係の改善が図られるようになってきているなどの感謝の声がある。今後の配置は、年度途中に配置が必要になった場合にも、即対応できるようにするなど、より一層落ち着いた教育環境づくりに努める。

次に、学校支援指導員について、人数は現在6人。資格については、特に教育相談や生徒指導などへの見識と経験が豊かな方で、現在、退職校長などを市の非常勤職員として登用。職務内容は、各小

中学校が、主体的、自立的に安全安心な教育環境を整えられるようにすることを目的に、各小中学校を巡回訪問し、校長や教職員に対して、生徒指導や教育相談などに関する課題について助言を行うこと。これまでも、特に生徒指導上の課題が生じた学校に対し、学校からの要請に基づき、校長のリーダーシップのもと、学校の指導体制を整備・強化するために学校支援指導員を派遣。教職員や保護者、地域の方々とともに朝のあいさつ運動や校内巡視を行い、学校秩序が回復できるように努め、一定の成果をあげてきた。今後の配置については、こうした成果を生かすとともに、議員さんからいただきましたご提案を踏まえ、中学校区を基本に小学校も含めた担当校を明確にするなど、きめ細かな支援に努め、課題の未然防止及び早期対応に取り組んでいく。

**質問⑨ 今後、草加市の土曜授業への取り組みについて。**

**答弁⑨**

学校が週5日制になった大きな経緯は、子ども達を家庭・地域にかえし、有効に過ごしてほしいということ。現在の子ども達の土曜日の過ごし方は、スポーツ少年団や水泳教室、中学校における部活動等、土曜日を有効に活用し、過ごしている子どもたちが多い。しかし、学力の向上も大切なことと考え、教育委員会は、4年前から月2回、土曜日に土曜寺子屋を4会場で開催し、算数、数学を中心とした学習を行っている。寺子屋への参加は、各学校を通して小学校3年生以上、中学校3年生までの保護者へ呼びかけたもの。この土曜寺子屋は、地域の方や保護者の協力を得ながら進められ、保護者からは非常に好評である。このように、それぞれの保護者の考えで自分の子どもに合った土曜日の過ごし方を工夫している現状が見られる。

学校での土曜日の授業について、各学校では新学習指導要領の実施に際し日課表を工夫し、学習指導の充実が進められており、授業時数も確保されている。議員さんがご指摘の足立区の土曜授業の狙いは新学習指導要領の学習内容の確実な定着と学力の向上、教育活動を保護者、地域に公開するもので、振替休日を設定しないで授業を行うもの。教育活動は、原則保護者に公開し、職員は、土曜授業実施前8週間、実施後16週間の中で勤務時間の振り替えを行って対応している。これは、毎月授業参観を土曜日に行っていることと同じ形態であることから、常に外部からの見学者が教室を出入りするため、落ち着いて学習ができるのかどうか、今後、その状況を研究しながら、慎重に行う必要があるとらえている。

**質問⑩ 現在小学校で導入している支援システムについて具体的な内容は。**

**答弁⑩**

各学校では「学校応援団」が組織されており、保護者や地域のボランティアに学習の支援をしていただいている。夏休みなどの長期休業期間中は、各学校において児童が自主的に学習できる場を設定し、その際、ボランティアの方々に、児童の学習を支援していただいている。市教育委員会としては、「草加つ子ステップアッププラン」推進事業として、子どもたちが自ら目標を持って学習を進められるように、算数・数学スィスイ問題集を作成するとともに、子どもたちが、自分の目標を達成したかを確かめるための検証テストも作成し、学校を支援。



私感「ワンダフルワールド」

私の小中学生時代の学校は、生徒数も多くとにかく楽しくもあり、また厳しくもあるものでした。今思えば、先生や親からもらった数多くのゲンコツも懐かしい思い出と言えます。

学校では人と人との強い信頼関係の上に、親・生徒・先生のコミュニケーションが築かれ、物質的には貧しいが、心は豊かで、常に夢を描いていたように思います。今の草加の子どもたちに、自由な夢を描けるような真っ白なキャンパスをプレゼントしたい。私はこれからも「かたちになる夢」を描き続けます。